

---

## 安全教育について

東京学芸大学附属世田谷中学校 指導部

---

### 1 安全教育とは

#### (1) 安全教育とは

学校教育内容には、国際教育、キャリア教育といった多種多様なものがあります。その中のひとつが、安全教育です。目的は、安心して安全に生活することができる、いわば『事故に遭わない、事故を起こさない』人間の育成です。

安全教育は、本来学校生活に於いて、いつでも扱われます。＜これ常に安全教育＞です。その守備範囲は広く、例えば薬物教育など他の教育内容と多々重なっています。「爪を切りなさい」も、立派な安全教育です。『安全に行動する』ことを学ぶ教育なのです。

#### (2) 主な全校規模の安全教育

##### ① 5月の避難訓練

普通、火事を想定し、避難方法の復習と本校の避難経路を覚えることを主たる目的としています。

##### ② 9月の避難訓練

防災の日に関わって、地震・火事を想定した避難訓練です。予め、生徒には行動心得や避難方法について考えさせておきます。そして、2学期始業式の日、抜き打ち実施します。教師は先導せず、

生徒各自が自分の判断で行動し避難することを期待します。実際に起こった場合を想定しているのです。

##### ③ 1月の講演会

ここ何年かは、ネットに関わるマナーについて、外部講師による講演会を実施しています。急激に増加するインターネットに関わるトラブルについて、生徒にとって身近な具体的事例を数多く提示しながら、その恐怖が実感できるよう工夫された講演です。毎回人気があります。

#### (3) 考えられる今後の教育内容

日頃の何気ない生活の中に於ける安全に対する配慮は、やはり安全教育の基本です。日頃の心がけが大事です。

また、地震は今後も私たちの不安材料となり続けるでありましょう。地震に対する自己対応型の避難訓練は、ぜひとも今後も続けていきたいと思います。不審者対策も気になるところです。不審者が、いつ校内に入ってくないとも限りません。油断禁物です。

最終的には、何時でも生徒が自主的に緊急対応できるようになることを、本校は目指しています。

## 2 5月の避難訓練

### (1) ねらい

- ①地震や火災発生時における校内での安全な避難の仕方を身につける。
- ②地震や火災発生時における通報訓練を行い、災害時に迅速な対処ができるようにする。

### (2) 日時

4月30日(月)

午前8時30分 実施

### (3) 内容

#### ①想定した状況

- ・関東太平洋沿岸を震源とする大地震が発生し、東京は震度6強の強震に見舞われる。
- ・校舎内の一部のガラスが割れ地震が収束したところで校舎外へ避難する。

・地震発生時において、生徒は各教室にて学級活動中とする。

#### ②状況設定の理由

- ・さる東日本大震災を受け、今後東京都内においても大地震の発生は十分想定しうるものであるため、地震時の対応を改めて確認する必要があった。
- ・年度初めの訓練のため、避難の方法や決まり事を確認することに重点をおくため、状況は生徒全員が各学級にそろっている、指導者側が管理しやすいものを設定した。

### (4) 実施時程

8:30

教室集合、担任より避難の方法、経路等の確認

8:50~

#### ◆合図・放送(事務)

①非常ベルにより災害発生を知らせる。

#### ②放送1

「これより避難訓練を行います。ただいま太平洋沿岸を震源とした地震が発生しました。生徒は頭を机の下に入れ、教室の中央に集まりなさい。」

#### ③放送2

「地震はおさまりました。ただし、ただいまの地震により窓が一部破損しています。生徒は担任の指示に従い、静かに落ち着いてグラウンド門に避難してください。」

#### ◆避難の指示・誘導(担任)

①机の下に頭を入れさせ、机を教室の中央に動かすよう適宜指示する。

#### ②避難開始

放送の指示に従い、最寄りの階段・通路からクラスごとに避難場所に避難させる。

◆グラウンド門前に昼礼隊形で集合・整列(学級ごとの並びは昼礼順、学級の中は到着順)

#### ◆点呼・報告(担任→副校長)

「〇年〇組異常ありません。在籍〇名、欠席者〇名、現在〇名です」

9:00 指導部長講評

## 9:10 終了

### ※留意事項

・指示は具体的、明瞭に。

何も持たないで出口に近い人から出て、歩きながら2列に並び、グラウンド門前に避難する。

・厳守させること

→お・か・し・も(おさない・かけない・しゃべらない・もどらない)

・欠席者の確認をしておく。担任は出席簿を持って、クラスの全生徒が避難したことを確認してから最後に避難する。

### (5) 反省点・今後の課題

避難の仕方や約束事の確認に重きをおいたため、生徒に予め避難訓練が行われることを当日の内にアナウンスしてあり、また教室に生徒が全員集合しているなかで訓練が開始するという、比較的オーソドックスといえる形式を採用した。結果として、単に「揺れを感じたら机の下に隠れる」のみならず、「ガラス等を避ける」「外においても身をかがめる」等、知っているようで知らない対応についても再確認を行うことができた。

しかし一方で、訓練それ自体は生徒から見ればすでに慣れてしまったものであり、避難する生徒の中にはやはりおしゃべりをしたりゆっくり歩いたり、本番をあまり想定できていない様子も見受けられた。

また訓練時の教職員の動きは予め定めてあり、また担任教諭は各教室にいたためスムーズな対処・指導を行うことはできた。しかし訓練後の課題として「必ずしも学級活動中等、生徒や教職員が決まった場所にまとまっているときに災害が起きるとは限らない」「休み時間等、生徒も教職員も不規則に散らばっているときにはどのように行動すべきか」というものが立ち上がった。

「訓練」をどれだけ「実際」に近づけることが可能であるかという問題だが、それを踏まえて取り組んだものが9月に実施した避難訓練である。不意をついて訓練を開始したとき、生徒が適切な対応をとることができるかという問題意識をもって行った。

ともあれ、今回の目標である「避難の方法・決まり等の確認」は達成できていたように思う。訓練を重ねることで、正しい知識・方法の定着を図っていきたい。

## 3 9月の避難訓練

### (1) ねらい

①「予告なし」「教室外」という通常の避難訓練と異なる環境下における訓練を行うことで、災害時の適切な対応の仕方をより实际的に学ぶ。

②教員が適宜誘導するのではなく、生徒自身に状況判断させ、ど

のような対応が適切なのか考えさせる。

## (2) 日時

9月2日(月) 始業式後(雨天中止、晴天だがグラウンド状況が悪い時はグリーンコート前に避難)

## (3) 内容

### ①状況設定の理由

5月の訓練では、基本的な事項を確認することに重きをおいたので、避難方法、経路等の指導を行ってすぐの訓練でした。しかし、休み時間等で生徒が教室に集合していないときに地震その他の災害が起こることもありえます。そこで、2回目の9月の避難訓練では予告なしで生徒が教室に集合していない状態での訓練を行いました。また、生徒が自分で判断して行動できる力を養う目的で、実際の災害時とは異なり、教員は最低限の指示しか出さないこととしました。

### ② 想定

- ・関東太平洋沿岸を震源とする大地震が発生し、東京は震度6強の強震に見舞われる。
- ・地震は収束したが、二次災害として教育相談室から火災が発生。
- ・始業式解散後少しして地震が起き、警報鳴動時点で各々のいる場所より校舎外へ避難する。

## (4) 実施時程と概要 予告

訓練当日の予告は行いませんでしたが、1学期の終わりに9月2日に避難訓練があることと避難時の注意事項の指導を行いました。

### 当日の時程

#### 始業式前

上履きを忘れた生徒は、訓練終了までは外履きで過ごさせました。(8:45多目的室に集合、底をきれいにさせる)。8:00～8:45の間に放送にて数回通知し、始業式前にも副校長が確認しました。

9:00 始業式開始

9:40 始業式終了・解散

9:45 訓練開始

合図・放送(事務係長・半田)

生徒がおおよそ半分程度体育館から退場した頃に、非常ベルにより災害発生を知らせました。

#### 放送1

「これより避難訓練を行います。ただいま地震が発生しました。生徒は今いる場所で適切な対応をとりなさい。」

各教員は決まった配置につき、避難開始の放送があるまでは、生徒に動かないように指示をしました。

#### 避難開始

#### 放送2

「地震はおさまりました。ただし、ただいまの地震により、1号館1階 相談室から火災が発生しました。生徒は相談室を避け、静

かに落ち着いてグラウンド門に避難してください。」

各教員は生徒が適切な地震対応をとれているか確認し、生徒の安全上必要な指示のみ与えました。また、校舎内に生徒が残っていないか、トイレなどもよく確認しました。

9:50 グラウンド門前に学級ごとに集合・整列・点呼

9:55 指導部長より講評

10:05 終了

10:20 教室での振り返り

「災害時避難マニュアル」とふりかえり記入用紙を生徒に配布し、訓練時の自分の行動を記述して振り返り、その行動は適切だったか、どのように行動するのが適切だったかを考えさせ、記述させました。

#### (5) 反省点・今後の課題

生徒の行動については、教室以外の場所における細かなマニュアルを知らないまたは忘れていた生徒が多いようでした。頭部を覆う、窓・ガラス等の近くを避ける等の指導は徹底する必要があります。また、職員用昇降口を通過した生徒が複数いました。教職員昇降口は火災が起きたと想定されている教育相談室のすぐ近くです。このことは、火災が起きているという想定を意識した対応ができなかった生徒が少なかったことを示しています。事前、事後の指

導で設定をよく意識させることや、繰り返しの指導等が必要と考えられます。

教員側としては、実際に災害が起きた時の役割・組織作りをさらに綿密に行うことの必要性が感じられました。近くにいた教員が昇降口を解放する等、いろいろなことを想定して毎年組織づくりを見直していくことが必要と考えています。

また、放送機器の音量・音質等の見直しも必要と考えられました。予算の関係もありますが、生徒にいち早く緊急性を知らせられるように機器の更新も今後考えていく必要があります。

今回の訓練では、訓練時の安全性も考えて、始業式の直後に設定しました。この訓練でも一定の成果を得ることができました。しかし、この訓練ではほとんどの生徒は体育館から1号館にある教室の間に収まっていた。今後はさらに生徒が校内のいろいろな場所に拡散している時間、例えば昼休み等の実施も考えていく予定です。

## 4 防犯講話

～講演会～

『インターネットの利用マナー』

(1) ねらい

携帯電話やパソコンなども使いかたによっては、単なる便利なツールというものでなくなってしまう。ネット

世界の怖さも知って初めて正しく使うことができるのではないかと考えます。「情報モラルの指導の一環」として昨年に引き続きご講演を依頼しました。

(2)①日時:

平成26年1月27日(月)

14:00~15:25

②場所:本校 体育館

(3)内容

①講師について

安川 雅史(やすかわまさし)先生  
ネットいじめ・いじめ・不登校・ひきこもり・少年犯罪問題に取り組む。年間 200 会場をこえる講演会や研修会を行う。過去5年間の受講者数は20万人を超える。(全国 Web カウンセリング協議会 理事長、平成 22 年度総務省青少年インターネット WG 構成員、平成 20,22 年度文部科学省ネット安全安心全国推進会議委員)

②講演内容の概要

- ・ネットいじめについて、事例、被害者だけでなく加害者になってしまう可能性も。
- ・ネットいじめを防ぐには
- ・誹謗中傷
- ・写真のアップ(個人情報)、プライバシー流出
- ・生徒の携帯電話・スマートフォンについて
- ・LINE について
- ・ツイッター、2ちゃんねるなど

③アンケート結果(自由記述)

生徒自身の現在の状況と照らし合わせての携帯等に関する気付きの記述が多くありました。

「僕は今までケータイについてちゃんと考えたことはありませんでした。今日のお話を聞いて普段あまり考えずに使っているケータイはとても怖いものだと思います。自分では犯罪だと意識していても、犯罪だったということがないようにこれからも今まで以上に気をつけたいと思います。僕のケータイにはフィルタリングもしているし、ウィルス対策もできているのでよかったと思いました。自分で常に考えながら、軽い気持ちで相手が嫌になるようなメールなどを送ることのないようにこれからも気をつけます。」(生徒記述より)

④今後の課題・予定

変化の激しい時代なので、来年はまた新たな注意事項が加わる可能性も大きく、常に新しい情報に対処していく必要を感じます。今後も継続的に『インターネットの利用マナー』について指導の予定です。